

Linc

リンク

つながる、看護のカタチ。



地方独立行政法人
山梨県立病院機構
<https://www.ych.pref.yamanashi.jp/kiko/>

Linc

つながる、看護のカタチ。

「仲間」と「自分」の
チカラを信じ、
「誇り」を持って働く



一人ひとりのチカラがつながり
質の良い看護にリンクする。

看護局の理念

私たちは看護専門職として、豊かな人間性を持ち、
常に看護の本質を追求し主体的に看護を実践します。

Linc 1

見て学ぶ

年間を通して様々な研修があり、充実した教育体制で、考える力が身に付きます。集合研修では、根拠を理解し、患者さんの状況に合わせたケアを学ぶことができ、成長につながります。

Linc 2

実践で育つ

PNS（パートナーシップナーシングシステム）で、患者さんを担当するため、疑問や不安をその場で先輩に確認できます。情報や記録など、2人でその都度確認や振り返りを行い、困った時にはすぐ相談できます。

Linc 3

良い看護

学びから実践を繰り返し、「良い看護」につながっていきます。そしてまた、患者さんにも喜んで頂ける質の高い看護を提供することができます。

01 山梨県立中央病院 DATA BOOK (2024年4月1日現在)

病床数 644床

診療科 39科

職員数 1528人(看護師数765人)

看護体制 7:1看護

病院見学のご希望は

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1丁目1番1号

電話:055-253-7111(代)内線3928(キャリアサポート室)

指定病院

- 地域医療支援病院
- 高度救命救急センター
- 基幹災害拠点病院
- 第1種感染症指定医療機関
- 総合周産期母子医療センター
- がんゲノム医療拠点病院
- がん診療連携拠点病院 ほか

患者さんの「生活のあり方」に着目した回復促進を目指します

看護師には、24時間365日継続して患者さんの傍で、患者さんの回復過程が順調に進むように、そのはたらきを助ける役割があります。看護局では、患者さんのニーズの充足のために、5つの基本的事項①起きる②食べる③排泄する④清潔にする⑤活動するにそった、患者さんの生活のあり方に着目し、患者さんの回復促進への努力をしています。5つの基本的事項から患者さんのベースラインを観察し、患者さんの変化に気づくことができる看護師の育成を目指します。山梨県の基幹病院として、患者さんが一日も早く、住み慣れた地域で過ごすことができますように、地域と連携し、「早くきれいに治す」ことを目指し、邁進してまいります。

副院長・看護局長 石倉晴美



Linc みんなで支える高度医療

それぞれの部署で、一人ひとりの看護師が
患者さん一人ひとりを心からサポートし、
さまざまなニーズに取り組めます。



高度救命救急センター

山梨県唯一の救命救急センターで、一般の病院、診療科では救命の難しい超重症の救急患者さんに対応する第3次救急医療を提供する施設です。山梨県民の生命を守る最後の砦であると考え、一人でも多くの方の生命を救えるよう日夜努力しています。



総合周産期母子医療センター

総合周産期母子医療センターの指定を受けた山梨県内で唯一の施設です。NICUと連携し、合併症妊娠、多胎妊娠、胎児異常、既往妊娠・分娩で異常を認めたハイリスク症例を中心に妊娠・分娩管理を行っています。



がんセンター(がん相談・通院加療)

県内の医療機関では初めてがんゲノム拠点病院となり、がん診療と遺伝診療体制を整備しています。がん相談・通院加療センターなどを備え、社会生活を営みながらの治療を支援すると共に、がんによって生じる身体や心のつらさに対しても支援しています。

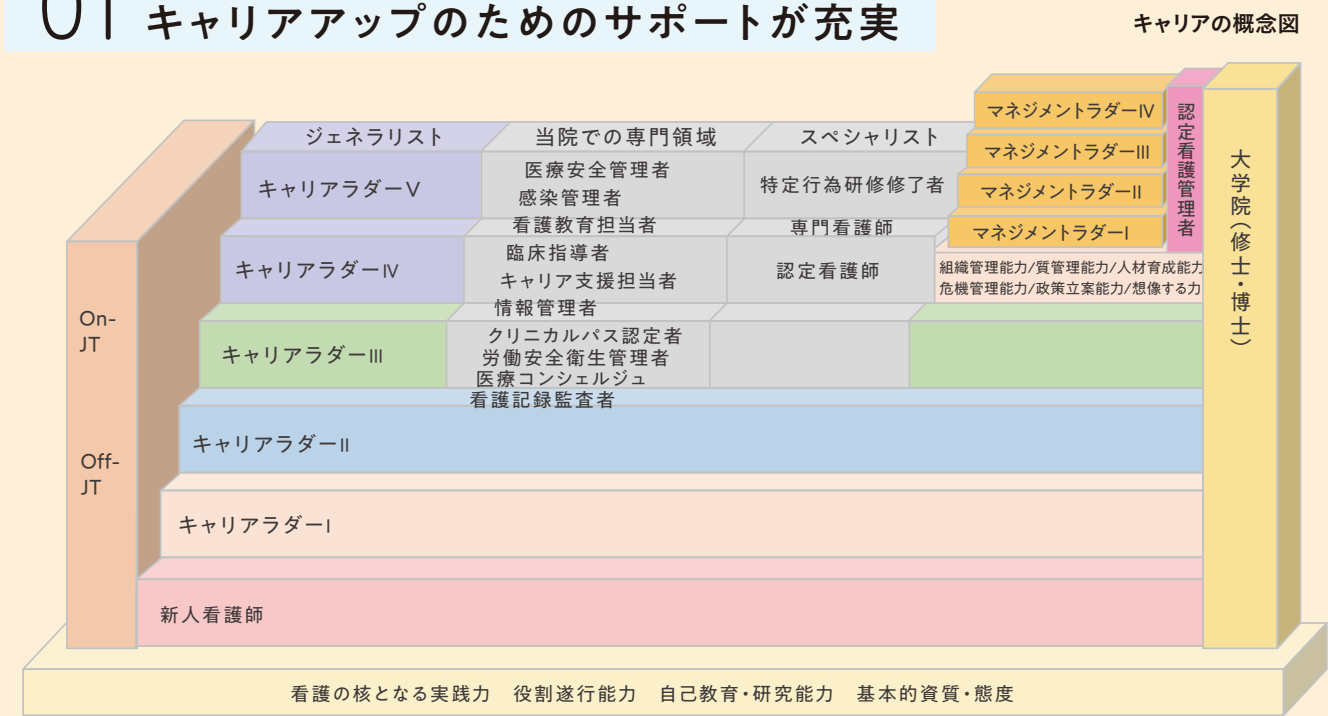


最新の機能を備えた手術室

救急患者の救命率向上を目指して、HEOR(ハイブリットエマーゼンシーオペレーションルーム)とHOR(ハイブリットオペレーションルーム)を増設しています。TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)をはじめとする、より侵襲の少ない治療を可能とするために、技術・管理を学び協同しています。

繋がりを大切に、
患者さんを支えるチーム力！

01 キャリアアップのためのサポートが充実



**自己成長へリンクして
いくキャリアラダー**

全看護職員が「人間性」を育み、県の基幹病院としての役割を果たすという理念に向け、自信と誇りをもって生き生きと働き続けていくことを目指しています。自身のありたい将来像へ一歩一歩確実に進んでいけるキャリア支援を設定しています。「看護の核となる実践力」「役割遂行の能力」「自己教育・研究能力」「基本的資質・態度」を基盤とし、個々にサポートを受けながら、それぞれに合わせた成長ができます。

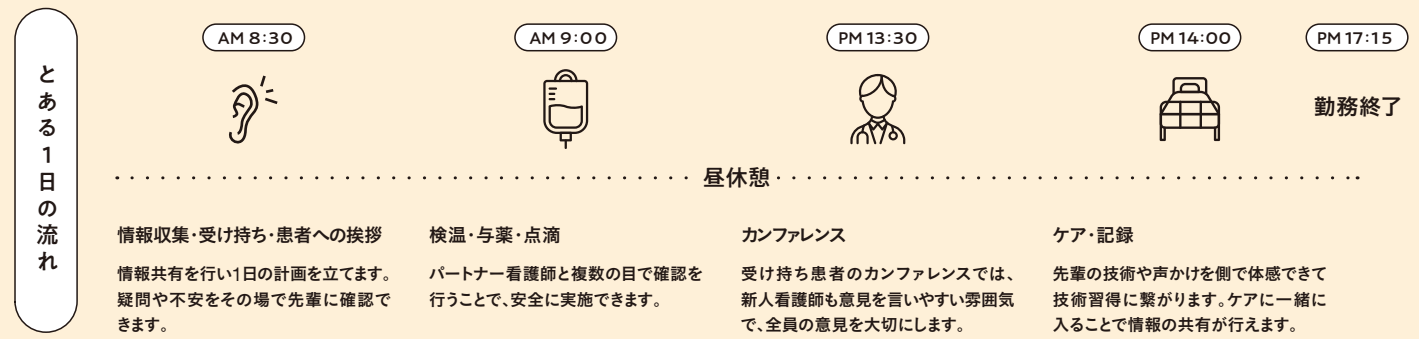
02 知識を蓄え、実践で身に付く育成プラン



研修と現場を繋ぐ支援

集合研修で根拠を理解し、病棟で先輩の説明を聞きながらケアを覚えてもらえるので、患者の状況を理解し、患者に合わせたケアを学ぶことができます。

03 一人ひとりを大切に新人看護師をみんなでサポート



一緒に考えてくれる先輩がいるから安心。サポートの積み重ねが、成長を実感できる。

04 自分の生活に合わせたワークライフバランスの実現

「私らしく組み立てられるプライベートと仕事のバランスで毎日充実しています」

医療チームの一員として、多職種との協働の中で患者さんの希望に沿った看護を行っています。不規則な勤務でも、勤務内で研修や学習会に参加ができ、自分のスキルアップができる環境です。休日には家族や友人と食事や買い物に行ったり、旅行に行ったり、自分の時間を大切にすることができ、心身ともに健康で働くことができています。プライベートが充実することで仕事への意欲も生まれ、毎日充実した日々を過ごしています。

【血液内科・眼科・皮膚科病棟 看護師】





自己のキャリアアップを目指し、成長や努力をしている看護師を積極的にサポートしています！ ※教育機関在学中は学費などの経済面をサポート

認定看護管理者 CNA		専門看護師 CNS	
認定看護管理者	2名	慢性疾患看護	1名
認定看護師 CN		母性看護	1名
皮膚・排泄ケア	2名	急性・重症患者看護	1名
集中ケア	1名	精神看護	1名
緩和ケア	9名	がん化学療法看護	2名
がん化学療法看護	2名	透析看護	1名
がん性疼痛看護	1名	糖尿病看護	1名
がん放射線療法看護	1名	新生児集中ケア	1名
慢性呼吸器疾患看護	1名	小児救急看護	1名
摂食嚥下障害看護	1名	クリティカルケア	1名
		計34名	
特定行為研修修了者		特定行為看護師	
		17名	



「認知症患者の立場にたった看護を考える」

認知症看護認定看護師の先輩の実践を見たときに、まるで認知症の人が見ている世界が見えるように感じ、認定看護師に興味を持ちました。認知症の人は、新しいことを記憶することが苦手となったり、物の見え方が変わっていきます。認知症の人にとって入院は、新しい環境且つ慣れない医療行為を受ける日々の連続です。疾患をよくすることだけでなく、穏やかな気持ちで過ごすことができるよう心がけています。そのためには、その人にどのような世界が見えているのか考えながら実践をしています。ぜひ、一緒に認知症の人が見ている世界をのぞいてみませんか。

〔認知症看護認定看護師〕

現場で活躍する先輩看護師

がん放射線療法看護認定看護師



母性看護専門看護師



心不全療法指導士



糖尿病療法指導士



腎臓病療法指導士



急性重症患者看護専門看護師



特定行為研修修了者



消化器内視鏡技師



Linc チーム医療で専門性を発揮する看護の現場



01 | 褥瘡チーム

医師、皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCN）、理学療法士、薬剤師、管理栄養士と共に『褥瘡発生ゼロ』『褥瘡を早く治し苦痛を緩和する』をビジョンに多職種と連携して回診を行っています。病棟看護師とWOCNがOn-JTを通し、褥瘡予防のスキルアップを目指しています。



02 | 摂食・嚥下チーム

摂食嚥下障害のある患者さんに対し、摂食・嚥下機能の回復、誤嚥性肺炎や窒息等のリスクを回避した支援を行い、生活の質の向上につなげることを目的としています。安全に「食べたい」を支えるため、環境調整やボジショニング、口腔ケア方法などを各病棟のリンクスタッフと連携しています。患者さんや家族の気持ちを尊重しながら、多職種における調整役として情報共有しています。



03 | 感染管理チーム

感染対策チーム（ICT）・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）として、医師・薬剤師・臨床検査技師など多職種と連携し、院内で起こった感染症の把握・分析・対策を行っています。また、病院内をラウンドし、感染対策のレベルアップと相談対応、患者さん・職員を院内感染から守るサポートをしています。



04 | 緩和ケアチーム

緩和ケア科と精神科の医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師がメンバーとなり、入院患者さんの症状コントロールや精神的な苦痛に直接、または間接的に介入しています。それぞれの職種が意見を出し合い、より良いケアを考え提案しています。

「多職種と連携して最善の治療・ケアを提供するために」

看護師は直接患者と関わる機会が他の職種と比べて最も多く、様々な業務を行うため多くの職種と関わり、協働しています。チーム医療での看護師の役割は患者・家族と多職種との橋渡し役です。チーム医療を実践していく上で、多職種が患者を中心に関わるためスタッフ間のスムーズな連携が重要です。医療スタッフがお互いの専門性を発揮し、最善の治療やケアが提供できるようにチーム内でキーパーソンの役割を担っています。

[皮膚・排泄ケア認定看護師]



Linc 給与・福利厚生

■ 身分・処遇等（2024年4月1日現在）

●身分 地方公務員

●給料 初任給（基本給）
大学卒 232,531円
専門3卒 227,493円
専門2卒 220,441円

※保健師または助産師免許を取得している場合は、
234,546円
※看護師としての職歴がある場合は加算あり

モデル月収例	大学卒	専門3卒	専門2卒
月額	232,531	227,493	220,441
地域手当	6,394	6,256	6,062
夜間看護手当	42,400	42,400	42,400
夜間勤務手当	11,116	10,892	10,584
救急病院勤務手当	10,500	10,500	10,500
合計	302,941円	297,541円	289,987円

基本給、主要手当（地域手当、夜間看護手当×4回分、夜間勤務手当×28時間分）含む

●手当 地域手当、扶養手当、救急病院勤務手当、住居手当、通勤手当、時間外勤務手当、夜間看護手当他ボーナス（6月と12月に年間4.4月分を支給）※住居手当：アパート等を借り受け、家賃を支払っている職員に対して手当が支給されます。（家賃に応じて手当額が異なります[支給限度額28,000円]）

●昇給 年1回

●勤務時間（県立中央病院の場合）
日勤8時30分～17時15分/日中勤8時～19時30分/夜勤16時30分～9時/短縮夜勤19時～8時45分/準夜勤16時30分～1時15分

●休日 土・日・祝日・年末年始 ※交代制のため、代休日を指定します。2024年度の休日122日間

●休暇 年次有給休暇20日（4月から3月の間に付与されます。）、婚姻休暇（5日）夏季休暇（5月から11月までの間に5日）、出産休暇（出産予定日前8週から出産後8週まで） ほか

■ 福利厚生制度

当機構の職員は地方職員共済組合や山梨県職員互助会に入会し、療養や年金等の給付、結婚や出産の祝金、育児休業手当等が支給されます。人間ドック等の健康管理事業や住宅購入等の資金貸付があります。また、様々な福利厚生事業（全国各地宿泊施設や文化・スポーツ施設の利用補助、バスツアー）もあります。

看護職員就職支度金貸与制度

当院で看護師になられた若手職員の経済的な支援をする制度があります。（詳細は山梨県立病院機構 総務課人事・給与担当にお問い合わせください）

快適な仕事環境・福利厚生施設

●育児支援 院内託児所があります。夜間保育、病児・病後児保育も行っており、働くパパ・ママをサポートします。

●仕事環境 院内にはPCや資料を完備した図書室があり、学習が可能です。また、様々なミーティングも行える会議室もあります。



■ つながりで体制強化

基幹病院との連携

01 県立中央病院

02 県立北病院

03 県立あけぼの医療福祉センター

県立中央病院、県立北病院、県立あけぼの医療福祉センターが連携し、山梨県の医療の体制強化に努めています。3施設共に教育体制・福利厚生等、働きやすい充実した環境が整っています。



外来、入院、訪問へとチームでつなぐ。
熟練した知識と技術を持つ集団へ。

北病院は、認知症疾患医療センターが併設され、子どもの心の診療拠点病院としての機能を果たすとともに、精神科救急医療、症状の重たい方への治療、アルコール依存症治療などを積極的に行っています。

「最新のこころの医療で、ともに回復を目指す」

北病院は精神科救急医療・児童思春期精神医療・アルコール依存症治療等、最新の医療とリハビリテーションを提供しています。また、認知症疾患医療センター、子どもの心の診療拠点病院の機能も果たしています。看護部は誰もが自分らしく暮らすことができるよう、地域包括ケアシステム構築に向け、外来・入院・訪問・地域の連携を推進し、退院支援の充実に取り組んでいます。そして、こころの出前講座や教育機関への看護師派遣など、人材の活用に積極的に取り組んでいる、やりがいのある職場です。

看護部長 谷中 昭一

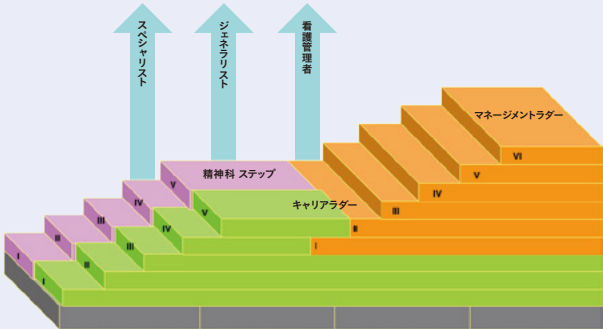


北病院教育システム

主体的に学習に取り組める環境

〈精神科に特化した教育体制(ステップ)〉

インストラクショナルデザインの概念を取り入れた教育体制を組んでいます。「教えることの科学と技術」を学び、質の高い現任教育の提供をしています。スタッフがそれぞれの生活スタイルの中で、自己のペースで学習できるシステムにしています。



専門看護師/認定看護師

専門性を活かしたチームが質の高い医療を提供するため、認定看護師や専門看護師の育成や活動を支援する環境が整えられています。認定看護師・専門看護師は、それぞれの分野において高い専門性を発揮し積極的に活動しています。

▼ 専門・認定によるコンサルテーション



当院の精神科看護

01 ストレングスモデル

- 患者さんの持つ長所や強み(=ストレングス)を活かす支援。
- 夢の実現をめざし、患者さんと共に計画、退院に向けたサポート。

02 クライシスプラン

- 患者さん個々の「病状悪化サイン」と「対処方法」を作成。
- 患者・家族・地域支援者と共有し、地域定着を目指す。

03 MSE (Mental Status Examination)

- 看護師の観察・アセスメントを多職種との共通言語に。

DATA BOOK (2024年4月1日現在)

病床数 182床
診療科 精神科
職員数 219名(看護師 123名)

看護体制 1A病棟:10対1看護 2C病棟:10対1看護
1B病棟:15対1看護 1C病棟:10対1看護
指定病院 心神喪失者医療観察法入院機関、応急入院指定病院、
認知症疾患医療センター、子供の心の診療拠点病院

病院見学のご希望は▼
〒407-0046 山梨県韮崎市旭町上條南割3314-13
電話:0551-22-1621



その人らしさを大切に、いのちの輝きを支える。

あけぼの医療福祉センターは、医療法による病院と児童福祉法および障害者総合支援法による福祉施設が合体した山梨県の施設です。

「その人らしく生きる」を支える看護

山梨県立あけぼの医療福祉センターを利用されている方の年齢は幅広く、病棟・外来・通園で医療・リハビリテーション・生活支援・発達支援を行う中で利用者の生命と人権を尊重し、その人らしく生きる支援を大切にしています。入所・在宅で生活する利用者と家族の方々が笑顔でいられるように多職種と連携し、話し合い協働しています。

看護師は、山梨県立病院機構からの派遣という形で勤務しています。看護師経験があっても重症心身障害領域の看護を習得して安心して看護ができるための教育体制を整えています。看護師として看護の力を発揮できる職場です。

総看護師長 石川文美子



専門性を高める研修会

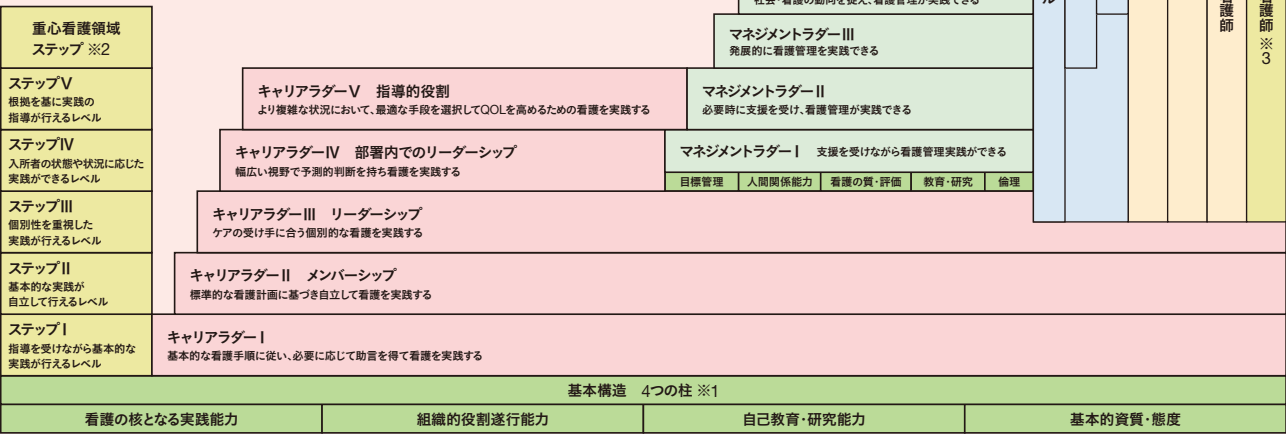


重症心身障害児者看護教育プログラム：ステップ

あけぼの医療福祉センターとして、重症心身障害児者看護の更なる質の向上と、
重心看護師の専門性を発揮できる看護師の育成に向けて
教育カリキュラム『重心看護領域ステップ』を運用しています。

▼ 県立あけぼの医療福祉センター 看護科教育体系

- ※1 キャリアラダーは県立病院機構と併せて3施設共通である。
- ※2 重心看護領域ステップは、当センターでの専門領域の教育プログラムである。
- ※3 重症心身障害看護師は、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会 協会認定重症心身障害看護師をさす。



重症心身障害児者看護師(日本重症心身障害福祉協定認定)
重症心身障害の看護分野における専門的知識と技術を元に質の高い看護実践活動と、指導的役割を果たしています



看護管理者

DATA BOOK(2024年4月1日現在)

入所	80人	通園	30人	■ 病院見学のご希望は
ピッコロ	医療型障害児入所施設・療養介護	チェンパロ	生活介護	〒407-0046 山梨県韭崎市旭町上條南割3251-1
コルネット	医療型障害児入所施設・療養介護	タムタム	医療型児童発達支援センター	電話:0551-22-6111
ピオラ	医療型障害児入所施設・療養介護・入院			
短期入所	定床型+日中一時支援	職員数	156人(うち看護師67人:常勤換算)	
親子入所	2組	診療科目	小児科、整形外科、リハビリテーション科	
看護体制	障害者施設等入院基本料 10対1		泌尿器科、皮膚科、歯科	
		外来患者数	52人(2023年4月1日現在)	

令和7年度 地方独立行政法人
山梨県立病院機構職員(看護師)募集案内

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1丁目1番1号
TEL:055-253-7111(代) FAX:055-253-8011



地方独立行政法人

山梨県立病院機構

YAMANASHI PREFECTURAL HOSPITAL ORGANIZATION

<https://www.ych.pref.yamanashi.jp/kiko/>

